No	受理日	番号	報告者名	一般名	物理形態	剤型名	用法名	用量名	使用理由	有効性	安全性	国内			
													チクングニヤウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	80086に同じ
													チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	80086に同じ
													チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	80086に同じ
													ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	80086に同じ
													ハンタウイルス	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	80086に同じ
													インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	80086に同じ
													鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月9日	80086に同じ
													パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80086に同じ
													パルボウィルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80086に同じ

													クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-20	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007; P04.51 2007年9月26-28日 Edinburgh	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007; P04.102 2007年9月26-28日	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-38	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	80086に同じ
													HIV	Eurosurveillance 2007; 12(5): E070524.5 2007年5月24日	80086に同じ
													HTLV	American Society of Hematology 2007 年12月8-11日	80086に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	コメント	主観的事象	客観的事象	原疾患	合併症	投与	薬剤	薬剤	[illegible]	[illegible]	[illegible]
												ﾘﾝﾊﾟ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80086に同じ
												エボラ出血	ProMED-mail20071130.3869	80086に同じ
												デング熱	ProMED-mail20071001.3237	80086に同じ
												デング熱	YAHOO!ニュース 2007年10月14日	80086に同じ
												日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	80086に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	80086に同じ
												B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日	80086に同じ
												B型肝炎	第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522	80086に同じ
												HIV感染、C型肝炎、B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 シンポジウム4-2	80086に同じ

ID	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
												B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 一般演題51	80086に同じ
												感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	80086に同じ
												C型肝炎	American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月2-6日	80086に同じ
												C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	80086に同じ
												E型肝炎	Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	80086に同じ
												E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	80086に同じ
89	2008/04/22	80089	日本赤十字社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail20070930.3228	80086に同じ
												ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	80086に同じ
												チクングニヤウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	80086に同じ

												チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	80086に同じ
												チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	80086に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	80086に同じ
												ハンタウイルス	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	80086に同じ
												インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	80086に同じ
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月9日	80086に同じ
												パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80086に同じ
												パルボウィルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80086に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-20	80086に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80086に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007; P04.51 2007年9月26-28日 Edinburgh	80086に同じ

													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007; P04.102 2007年9月26-28日	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-38	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	80086に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	80086に同じ
													HIV	Eurosurveillance 2007; 12(5): E070524.5 2007年5月24日	80086に同じ
													HTLV	American Society of Hematology 2007 年12月8-11日	80086に同じ
													リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80086に同じ
													エボラ出血	ProMED-mail20071130.3869	80086に同じ
													デング熱	ProMED-mail20071001.3237	80086に同じ
													デング熱	YAHOO!ニュース 2007年10月14日	80086に同じ
													日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	80086に同じ

No.	受理日	番号	処方番号	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
												ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	80086に同じ
												B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日	80086に同じ
												B型肝炎	第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522	80086に同じ
												HIV感染、C型肝炎、B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 シンポジウム4-2	80086に同じ
												B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 一般演題51	80086に同じ
												感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	80086に同じ
												C型肝炎	American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月2-6日	80086に同じ
												C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	80086に同じ
												E型肝炎	Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	80086に同じ
												E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	80086に同じ

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
90	2008/04/22	80090	富士製薬工業	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1348-1353	2006年5月にインドネシアのスマトラ北部でおよび2005年12月にトルコ東部の家族で観察されたトリインフルエンザH5N1の集団が、ヒト-ヒト伝播によるか否かを統計的方法を用いて調べた。スマトラの例ではヒト-ヒト伝播の統計学的エビデンスが見られ、概算された2次感染率は29%、局所的増殖数の下限値は1.14であった。トルコの例ではヒト-ヒト伝播のエビデンスは得られなかった。
												鳥インフルエンザ	Reuters Foundation AlertNet 2007年9月27日	H5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過して胎児に感染することができると研究者が報告した。ウイルスは肺だけでなく胃腸管、脳および血液細胞にまで達することも証明された。また、ウイルスは免疫系の一部を過剰刺激し「サイトカインストーム」を起こすだけでなく、マクロファージに障害を与えるなど免疫系の他の部分を抑制することが示唆された。
												感染	日本医真菌学会雑誌 2007; 48(Suppl 1): 83 第51回 日本医真菌学会総会 2007年11月9－10日	Conidiobolus coronatusによるEntomophthoromycosisの中国での初めての症例報告である。36歳男性で、10ヶ月前より鼻閉が生じ、7ヶ月前より鼻背部が発赤・腫脹し、診察時、鼻全体より頬部、上口唇にかけて高度の腫脹と変形を認めた。病理検査で慢性好酸性肉芽腫病変がみられ、rDNAの塩基配列分析の結果Conidiobolus coronatusと一致した。Itraconazole12ヶ月間投与により完全に治癒した。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080110.0134	2008年1月10日、中国保健局は、最近、江蘇省で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていないと確定した。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。

ID	受理日	番号	報告者名	品名	原料名	原産地	国内	製造工程	添加物	有	無	無	疾患	文献	内容
													エボラ出血	CDC 2008年1月8日	CDCとウガンダ保健省は、2007年8月から始まったウガンダ西部に位置するBundibugyo地区におけるエボラ出血熱のアウトブレイクを報告した。2008年1月3日までに148人が罹患し、37人が死亡した。患者検体の遺伝子解析により、既知の4つのエボラウイルス株と異なる、新たなウイルス株である可能性が示唆された。確定には更なる研究が必要である。
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。
91	2008/04/23	80091	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシの乳由来成分	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無				
92	2008/04/23	80092	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol published online doi:10.1128		抗HCV抗体陰性で、肝組織中のHCV RNA検出により潜在性HCV感染と診断された110例の患者由来の血清中のGOR抗体反応性を調べた。抗GOR IgG陽性患者は22例(20%)で、慢性C型肝炎患者での陽性率(70/110、63.6%)に比べ有意に低かった。HCVに無関係の肝疾患患者120例では抗GOR IgGは全く検出されなかった。市販の検査でHCV特異抗体を検出できず、血清中HCV RNAが検出できない患者で抗GOR IgG検査を行う事は、肝生検なしで潜在性HCV感染を同定する手助けとなりうる。

													パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	B19ウイルスの不活性化機構を調べた。熱または低PHによるB19Vの不活性化はカプシド分解によるものではなく、感染性ビリオンがDNA枯渇カプシドへ変換することによって起こった。DNA枯渇カプシドは感染性はないが、標的細胞に接着することは可能であった。Parvoviridaeの他のウイルスとの比較試験の結果、被殻状態でのB19V DNAの著しい不安定性が明らかとなった。B19Vが不活化処理に抵抗性が低いのはこのためと考えられる。
93	2008/04/23	80093	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol published online doi:10.1128	抗HCV抗体陰性で、肝組織中のHCV RNA検出により潜在性HCV感染と診断された110例の患者由来の血清中のGOR抗体反応性を調べた。抗GOR IgG陽性患者は22例(20%)で、慢性C型肝炎患者での陽性率(70/110、63.6%)に比べ有意に低かった。HCVに無関係の肝疾患患者120例では抗GOR IgGは全く検出されなかった。市販の検査でHCV特異抗体を検出できず、血清中HCV RNAが検出できない患者で抗GOR IgG検査を行う事は、肝生検なしで潜在性HCV感染を同定する手助けとなりうる。
												パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	B19ウイルスの不活性化機構を調べた。熱または低PHによるB19Vの不活性化はカプシド分解によるものではなく、感染性ビリオンがDNA枯渇カプシドへ変換することによって起こった。DNA枯渇カプシドは感染性はないが、標的細胞に接着することは可能であった。Parvoviridaeの他のウイルスとの比較試験の結果、被殻状態でのB19V DNAの著しい不安定性が明らかとなった。B19Vが不活化処理に抵抗性が低いのはこのためと考えられる。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa073785	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シークエンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。

ID	公開日	番号	製薬会社	商品名	原料名	原料	原産国	使用目的	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
94	2008/04/23	80094	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol published online doi:10.1128	80093に同じ
												パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	80093に同じ
												ﾘﾝﾊﾟ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa073785	80093に同じ
95	2008/04/23	80095	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。
												ウイルス感染	J Virol 2007; 81: 12709-12714	末梢血幹細胞移植後に肺炎で死亡した患者由来の検体から未知のウイルスが分離された。無作為PCRに基づいたスクリーニング法により、この感染物質はトリパラミクソウイルス1(APMV-1)と同定された。肺組織中の脱落肺胞細胞にAPMV-1抗原が存在することが免疫組織化学的分析により確認された。遺伝子配列から病原性ハトAPMV-1株と最も近縁であることが示された。APMV-1感染によるヒト致死症例の初めての報告である。

ID	受理日	番号	会社名	一般名	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
												神経系障害	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
96	2008/04/23	80096	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
97	2008/04/23	80097	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	バクトトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無			
98	2008/04/23	80098	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			